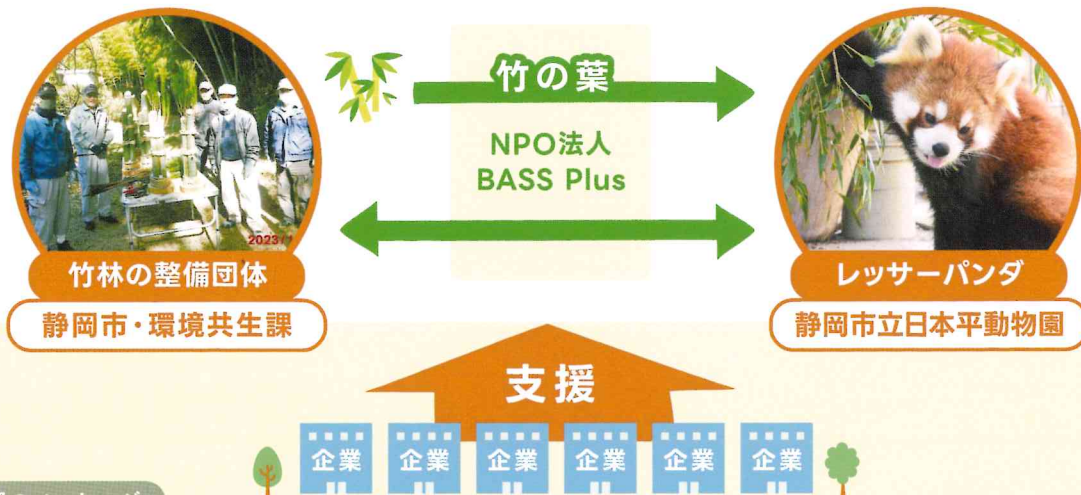


もぐもぐプロジェクト



レッサーパンダは竹の葉を主食とする動物です。日本平動物園では近隣の竹林から竹の枝葉を飼育員がとってきています。その量は7頭で1日約10kg、年間では約3,500kgほど!レッサーパンダは小さい体でたくさんの竹を食べます。一方で、静岡県では放任竹林が課題となっています。管理が行き届かず竹が増えすぎた放任竹林では、生物多様性が減少し、土砂災害に弱い土地になってしまいます。そこで放任竹林の整備時に出た竹の葉をレッサーパンダの餌として与える「レッサーくんのもぐもぐプロジェクト」が始まりました。放任竹林を整備する団体をまとめる静岡県環境共生課と竹林活用を推進するNPO法人BASSPlus様がタッグを組み、さらに様々な企業の支援が加わることで成り立つ一大プロジェクトです。レッサーパンダがおいしく竹を食べるだけで、静岡市の竹林環境の向上に貢献できる、夢のような企画が始まっています。(飼育第1係/中村)



静岡市環境共生課のメッセージ

竹と聞くと【タケノコ】、【竹かご】、【竹とんぼ】、などいろいろと連想されると思いますが、今その竹が静岡で深刻な問題を引き起こしています。竹は非常に成長スピードが早く、手が入らない山はあっという間に一面が竹林となってしまいます。そのような竹林には光が入らないため、竹以外の植物が育たず、動物も棲めない山になってしまいます。また、竹は深い根を張ることができず、水を蓄える力もないことから大雨が降った際は洪水や土砂崩れの原因にもなります。

静岡市には放置された竹林を整備して下さるボランティア団体も多く存在しています。静岡市ではそのような団体の活動支援を行うとともに竹が活用される仕組みを企業や大学などと連携し研究を行っています。

今回の【レッサーくんのもぐもぐプロジェクト】は竹林を整備した際にでた竹の枝葉を日本平動物園で飼育しているレッサーパンダの飼料にするという新しい取り組みです。みなさんに少しでも、本プロジェクトへご関心を持っていただければと思います。

NPO法人BASSplus からのメッセージ

NPO法人BASSplus(ベースプラス)は、静岡市内の放任竹林対策と、それを通じたネットワークの構築、竹利用の可能性模索を続けています。今回の静岡市との協働パイロット事業で市内の竹林伐採団体にお声掛けしたところ、10団体程度が参加してくれました。この事業を通じて、放任竹林対策への理解が深まり、共感・協働して下さる仲間が増えてくれればありがたいです。●問い合わせ先/Mail:npb.bassplus@gmail.com



静岡信用金庫からのメッセージ「定期預金で放任竹林対策」を支援!

静岡信用金庫は、環境省が打ち出す「デコ活」(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称)の普及促進を目的に、令和6年6月3日から令和6年8月30日まで、「定期預金 せいしん『デコ活Project! II〜レッサーくんもぐもぐ編〜』」を販売いたしました。この定期預金は、販売総額の0.010%相当額(上限100万円)を当金庫の負担で「静岡市立日本平動物園」様と「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」様に寄附する定期預金であり、ご契約いただいた皆さまの賛同が環境問題への支援に繋がる仕組みとなっています。



今回「静岡市立日本平動物園」様への寄附金については、レッサーパンダの飼料(竹の葉)購入等に活用され、同園を通じて静岡市が取組む「放任竹林対策事業」の活動支援へ繋がります。これからも、当金庫は地域の環境問題に対する取り組みを積極的に続けてまいります。



レッサーパンダの竹の葉取り

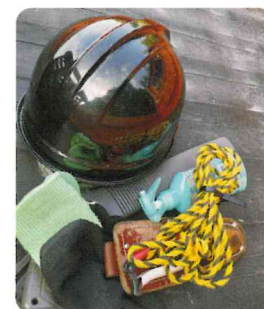


1980年9月に西安市から2頭のレッサーパンダが来園して以来、餌の竹の葉は飼育員自ら山に入り採取してきました。今回はどのように作業しているかを紹介したいと思います。

近年、レッサーパンダの飼育頭数が増えるとともに餌となる竹の使用量が増加しています。昔は動物園に近い場所でも竹を採取できたのですが、年々難しくなっており、以前は入らなかった山奥にまで行くようになりました。また、春〜夏は葉が散ってしまっていたり、新芽が生えたりしてなかなか良い竹が見つかりません。ではどうするのかと言うと、山奥のさらに奥へ入ります。なぜ?と思われるかもしれませんが、実は暗く標高が少し高い場所は、日の当たる場所よりも竹の葉の新芽が出る時期が遅く青々とした葉が取れる確率が上がるからです。ただ、残念ながら移動に時間がかかるというデメリットがあります。

最近では傾斜がゆるやかで、ぬかるみの少ない地面に生えた竹は少なくなっているため、より急な斜面に生えている物を切り出します。そのような場所で竹を切り倒すと当然、竹は斜面から滑り落ちていきます。そのため、引き上げて山から持ち出すのですが、夏場はこの作業が非常にキツく、作業後5分ほどは体が動きません。

1日に使用する竹の量は1〜2本くらいですが、得られる葉の量は竿によって大きく異なるため、3〜4本切る場合もあります。



◀竹の葉を取るのに必要な道具。ヘルメット、手袋、剪定ばさみ、のこぎり、ロープ、虫よけスプレーです。これらを持って山に入ります。



▲竹が取れる場所の風景。



▲竹を運ぶ際、藪の中から飛び出したコジュケイです。動物園の周辺に生息していることは知っていたのですが、久しぶりに観察できました。



▲朝、昼、夕と1日3回竹の葉を与えています。現在は7頭飼育しているので1日の消費量は21束となります。



▲汚れを洗い落とします。

切り倒し、山の中から持ち出した竹はそのままでは運べないので、剪定ばさみを使用し竹の幹から葉の付いた枝を切り離し車に積み込みます。また走行中に竹が落下してしまう事があるのでロープで巻いて固定します。その後、レッサーパンダ館へ向かうのですが、移動する前に必ず行う作業が長靴の洗浄です。足の裏に着いた泥を落とす以外に、レッサーパンダが病気になるような原因を持ち込まないためです。



▲切り倒した竹を山林の中から引き揚げます。



▲枝を竹から切った後、車に載せてレッサーパンダ館まで運びます。



▲長靴の裏までしっかり洗います。

レッサーパンダ館へ竹の葉を運び、降ろしたら作業終了…とはいきません。次は1回の給餌に与える分の竹の葉を束ねてからビニール紐で縛ります。給餌量を分かりやすくし、また獣舎清掃時に竹の枝をスムーズに回収するためです。この竹を縛る作業がなかなか大変で、1時間ぐらいかかります。

結び終わったら、竹の葉を全体的に水で洗浄します。汚さないよう気をつけて山から持ち出していますが、どうしても土などが付いてしまうので出来る限り汚れを洗い落とします。新しい竹と古い竹が混ざらないよう気をつけつつ、竹の葉をプールに浸し、ようやく竹取り作業終了となります。

(飼育第2係/岩田)



▲日持ちするよう竹専用プールに沈めます。枯れないよう、葉までしっかりと水につけます。